

⑥横浜駅西口における既存施設を活用した ショットガン方式による貸切バス専用乗降場の整備

受賞機関 横浜市

キーワード 運用工夫のソフト施策、駅前の駐車環境改善、低コスト

全建賞審査委員会の評価ポイント

横浜駅西口における貸し切りバス対策（長時間駐車や二重駐車による混雑等への対応）について、関係機関や地元企業等と連携を取りながら、バスと乗客の待機場所を乗降場とは別に確保する“ショットガン方式”をルール化し、用地買収もせず僅かな施設整備のみで利便性向上を図った取組み。

低コストで大効果を上げた点や、限られた敷地に多くの機能を求められる駅前空間の課題に対して運用の工夫で解決し、他の事例の参考となる貴重なケースである点が評価された。

1. はじめに

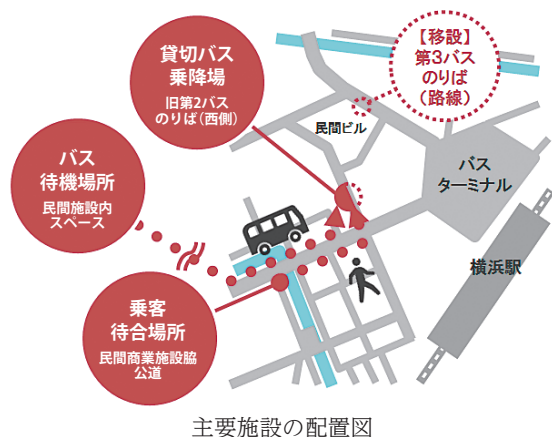
横浜駅西口では、貸切バスの客待ちによる長時間駐車やそれに伴う交通阻害、乗客のゴミのポイ捨てや周辺民間ビルのトイレ無断使用等の課題が顕在化し、長年の懸案となっていた。

諸課題の早期解消に向け、旅行業や貸切バス事業者の企業体、地元企業、神奈川県警、横浜市が一丸となって貸切バスの発着ルールの明確化及びその運用等について検討を行い、平成29年7月24日（月）に運用を開始したものである。

2. 事業の概要

新たに設置した乗降場でも同様の問題が生じることを避けるため、また、大規模な用地を確保することが困難であったことから、バスと乗客の待機場所を乗降場とは別に確保する“ショットガン方式”を採用することとした。

施設の利用は有料予約制とし、①既存施設を活用、②乗降場、バス・乗客の待機場所を分散配置、③各所に配置された案内員が連絡を取り合い、各施設を連動して効率的に運用、という特徴を併せ持った、独自のシステムを構築した。



貸切バス専用乗降場

3. 事業の成果

バスや歩行者の乗降場での滞留が解消して歩車道の交通が円滑化したほか、場所取りのための長時間駐車が不要となったため、バス事業者や乗務員の負担も軽減することができた。乗務員からは、安全確保の面から取組みを評価する声が挙がっている。また、乗客の待合場所が明確になり、乗客の利便性も向上したほか、各所に配置された案内員の誘導により、乗客は整然と待機、乗降しており、ゴミのポイ捨て防止といったマナー向上にも役立っている。

4. 事業実施上の工夫

予約サイト等の構築や乗降場の管理運営は、今回の取組みのために設立した一般社団法人横浜駅西口バス乗降場管理協会が行っているほか、既存の路線バスのりばを転用したため、横浜市が整備を要したのは、植栽の撤去や建柱、舗装復旧、区画線の設置など小規模なものにとどまった。事業費は約400万円、事業期間は1ヵ月半（計画策定を含め2年）と、大規模な施設整備と比較すると、事業費・期間ともに大幅に削減することができた。

また、今回の取組みでは、20以上の関係者と調整を行う必要があったが、県警と横浜市が事務局となって主要な関係者が一堂に会する対策会議を設け、役割分担を明確化したことで各々が主体的に取り組むとともに、円滑に全体調整を行うことができた。

5. おわりに

今回の取組みが、他都市における観光客の増加に伴う貸切バス問題の参考となれば幸いである。

横浜駅西口貸切バス乗降場予約システム：

<https://バス停.yokohama/>

